

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス たねのね nico		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性を持ち、お子さまのことを十分に理解し、一人一人の発達段階に沿った丁寧な関わりを大切にしている点が強みだと考えています。	個別に今必要なことを検討し、場面に沿ったより良い関わりの方 法を、療育の時間全てを通して常に提供し続けることを考 えて取り組んでいます。	職員の配置や専門性の向上に取り組んでいます。職員の専 門性の向上のため、定期的に研修を行います。内部研修以外 にも、外部研修に積極的に参加し、専門性の質の向上に努め ていきます。
2	学校に行くことが難しい、他者との境界があいまい、行動の調 整が難しい、家族中での疲弊や関りに対する提案等様々な困 り感に対して、個別に対応を行っています。	行動の背景(感情・感覚・環境・関係性)を丁寧に読み解き、 “できていない”ではなく“どうすればできるようになるのか”と いう視点で支援を組み立てています。 本人・家庭・学校の三者が同じ方向を向けるように、三者が無 理なく続けられる“ちょうどよい支援”を、一緒に作っていくこ とを大切にしています。	質をさらに高めるために、①見立ての精度向上②家庭と学校 との連携強化③子どものできた、できるを育む仕組みづく りの3つを軸に、日々の実践をアップデートしてきます。 子ども理解の深さや個別支援の柔軟さが評価されました。見 立ての精度向上や連携の強化、子どもの自己肯定感を育てる 仕組みづくりを進め、質の高い支援を目指してきます。
3	一人一人のお子さまが、今日の取り組みに対して期待感をも って楽しみに通所されていることが強みだと考えています。	内容に偏りが出ないよう、また取組の経験が積み重なっていく よう年間を通して取り組んでいます。 将来の自立した生活に向け、月単位での達成度、数カ月単位 での達成度、一年、数年と達成度を段階に沿って設け、「今日 できたこと」が「将来の自立」につながる道筋が見える支援に 取り組んでいます。	活動の見通しづくりや小さな成功体験の積み重ね、家庭・学 校との丁寧な連携を通して、子どもたちが「今日も行き たい」と感じられる環境づくりを進めてきました。 今後も、日々の楽しみと将来の自立の両方を支えられるよ う、支援の質をさらに高めています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもと活動する機会が少ないことです。	交流センターなどの催しに参加したり、事業所でのたねのね祭 りに幅広い方々に来ていただく機会を設定していました。 地域のお子さまと一緒にできる、実現可能な活動を設定する機 会を作ることができませんでした。	今後は、負担の少ない小規模な交流の場づくりや、地域イベント への部分参加、たねのね祭りの参加しやすい形への見直しなど、実現 可能な方法から地域とのつながりを広げていきます。 子どもたちが安心して参加できるよう、事前の見通しづくりや役割 設定などの準備も丁寧にを行い、無理のない形で地域との交流を進め ていきます。
2	父母の会の活動や保護者会、兄弟への支援等を開催する機会が 持てなかったことです。	個々の相談や提案に対しては、丁寧に取り組むことを大切に していますが、共働きの保護者の方々が多く、一同に来ていた だいて活動を行ったり、保護者会を開催する場を設定し提案す る機会を作ることができませんでした。保護者同士がつながり 合える場づくりや、きょうだいを含めた支援の機会を広げるこ とが今後の課題です。	取組が可能な範囲で、オンラインでの短時間の保護者会や、 小規模なきょうだい支援、情報共有の工夫など、参加しやす い形での取り組みを進めていきます。個別相談の丁寧さを大 切にしなが、保護者の皆さま同士がゆるやかにつながれる 場づくりにも取り組んでいます。
3	ホームページやSNS等で活動内容を伝える機会を多く持てな かったことです。	今年度は、ホームページやSNS等を通じて活動内容を十分に発 信する機会を持つことができませんでした。日々の支援や個別 相談を優先する中で、情報発信に時間を確保することが難し く、たねのねの取り組みや子どもたちの成長を広く伝える機会 が限られてしまいました。	月1回程度の活動ダイジェストや短いレポートなど、負担の少 ない形で継続的に情報を発信できる仕組みづくりを進めてい きます。テンプレート化や担当制の導入など、無理なく続け られる工夫を取り入れながら、保護者の皆さまや地域の方々 に、たねのねの取り組みや子どもたちの成長をより分かりや すくお伝えしていきます。